阻止しよう！ 水道料金の大幅値上げ

働く者の家計に大問題

いま大牟田で「水道料金値上げ反対」の運動がまき起こっている。

田中忠蔵市長にいわすれば「水道事業を行なうのに金がいる」「人件費が高い」「拡張のための投資にもとずく金利負担が高い」などの理由からだとしているが、いずれにせよ田中市長提案による水道料金値上げ案は別表の通りである。

		現行料金	改定料金	値上率
一般用基本料金	10トン	290円	390円	34.5%
超過料金	1トン	37円	55円	48.6%
営業用基本料金	10トン	290円	390円	34.5%
超過料金	1トン	45円	70円	55.5%
浴場用基本料金	200トン	3,200円	4,600円	43.7%
超過料金	1トン	20円	40円	100.0%
共同用基本料金	5トン	145円	195円	34.5%
超過料金	1トン	33円	50円	51.5%
船舶用超過料金	1トン	60円	90円	50.0%

一般料金が三四・五%も値上げされることは、市民にとってはいうまでもなく痛い。政府はこの秋から米一六%、国鉄や私鉄料金（とくに通勤パス代）が一一%、大学・高校授業料が二～三倍、国民健保が二千二百十一円、タバコも酒も値上がりする。それに水道料の値上がりとなるのでは、家計にとっては大変なことといわなければならない。市民が強く反対するのも当然である。

田中市長の提案内容の基本をつらぬいている考え方は、三井擁護・住民福祉無視によっており、水道料金を値上げしなければならない理由はないとされている。

本来市民のものであるはずの諏訪川は、三井が思いのままにしていて、市の取水を阻止している。う崎前県知事の協力と闘いで、市は同川から二万トン取水する協定を結んでいるのに、三井は日に五千トンしかやらない状態である。もし契約通り二万トン取水すればそれによって市が得する分は、年に二百万円にのぼるという。

そのほか市が当然支払うべき消火用栓や、市役所の使う分さえ市民の負担にしたり、人口の多くない地区への水道拡張（市町村合併の条件となっている）への投資に要する利子まで市民に負担させたりしようとたくらんでいるが、それらは当然市として支払うべきもので、それらをあわすれば四千四百三十万円ほどにものぼる。そんなものまで算入して水道会計を赤字と称し、市民をごまかそうとしているのである。事実現在でさえ大牟田市と近似する全国二十市のうち、一般家庭用の水道料金は大牟田市が一番高い。

田中市長がめざす四六%にものぼる理由なき水道料金の値上げは断じて阻止しよう。それはとくに低賃金労働者の家計にとって大問題だ。

係員恐怖症治療法

原因　三池闘争後より急速にふえ、流行期はまだ衰えを見せない。

症状　白・青ランプ（交通信号にあらず）を見るとたんにキョロキョロ、ソワソワ、次第に尻が落ちつかず、顔つくりをし出すが、その実ヘマばかりくり返す。

治療法・投薬　特効薬はアメリカにある、と某週刊雑誌に発表されていたが、とくに三池には重症者が多いので、その特効薬も果たしてきくかどうか。むしろ組合病院で、あらっぽいショック療法を用いるにかぎる。

効果　たとえ白・青ランプを見ても、ハラが大きくなり、「がんばろう」をさけぶようになり、落ちついてよく安全にも注意しながら、良心的に仕事をするようになるのはうけあい。

（宮浦支部甲方転場新聞〝めざまし〟第六号から）

沖縄行進団、大牟田を出発

去る二月二十三日大牟田入りした沖縄行進団（正しくは〝沖縄の即時無条件全面返還、核基地撤去を要求する国民大行進〟）は、四日大牟田市役所前を次の目的地の柳川をめざして出発した。

同月七日鹿児島を出発した行進団は、金城良雄さん（沖縄官公労組）ら四人が中心で、連日のきびしい寒さもいとわず、東京で四月二十八日に、例年の通り与論島南の二十七度線上で今年も開催される海上大会に呼応して開かれる中央大会めざし、歩いている。

大牟田からは百人の人々がその行進団に参加、柳川まで歩いた。

沖縄は祖国から切り離され、アメリカの軍事支配下におかれてから早くも十六年たつ。百万の沖縄県民は、基本的人権をはぎ取られ生命や財産をさんざん踏みにじられている。

その沖縄はいま、アメリカのベトナム侵略の拡大につれ、原爆搭載機B五二の駐留が恒常化し、恐るべき核戦争の危機におののいている。沖縄の人々がこのように不幸なアメリカの軍事支配から一日も早く脱け出し、真に日本国民として同じ憲法のもとで平等の権利をもって生きてゆくことができるようのぞむのは当然であろう。

また全国民にとって「沖縄の即時無条件全面返還、核基地撤去」の問題は、いまではすでに日本全土の戦争と平和に関する問題となっているとき、こんどの行進団の要求はまさに全国民の要求としなければならない。

金城さんは「沖縄にやってきて井戸を掘り、水はアメリカ人たちが勝手に管理して、各市町村を通じて私たちに売りつける。しかも水不足の夏など、私たちには飲み水もやらずにおきながら、金網のむこう側では水浴をしたり、芝生にジャージャー水をかけたりしている。こんなことを許されますか」と語るが、沖縄の現状はそのまま黙視することはできない。

「今すぐ沖縄を返せ」

一路東京めざし　行進団、大牟田通過

佐藤内閣支持がた落ち

時事通信世論調査

時事通信社が一月十日から三日間行なった世論調査によると、佐藤内閣の支持率は三三・〇%と一月の四一・六%にくらべ人気がた落ち。逆に「支持しない」が一月の二五・八%から一二・一%ふえて三七・九%に達しました。同通信社はその原因を「軍艦や大砲を背景にしない外交はだめだ」という〝倉石発言〟と、国鉄定期値上げなど物価問題にあるとみています。

注目されるのは「日本はどの陣営についたらよいか」の問題。足かけ九年にわたり毎月実施してきた調査ですが、今回初めて「中立でいったほうがいい」（四二・〇%）が「自由陣営についたほうがよい」（三一・三%）を上まわりました。【KNA】

米軍は沖縄から出てゆけ

宮浦　平田千佐子

沖縄は
米軍の基地の島
慰霊塔のコンクールのような
島

「戦争犠牲者はザット四十五万人」

米軍の飛行機の爆音の恐怖のなかで
沖縄の人々はなげく

いつか佐藤総理は沖縄にいったが
果たして何のためにいったのか
沖縄は雨の多いところ
昨日も雨
今日も雨　そして
明日も雨が降るだろう
その雨は
戦争のため死んでいった犠牲者
の怒りの涙か

燃えろ
沖縄の怒りの炎よ
国の隅々にまで燃えよ
沖縄の怒りの火よ

沖縄は日本国民の土地
その土地の平和をはぎとり
緑の野を踏み荒らす米軍よ出
てゆけ

沖縄から出てゆけ

俺たちには明日がある

四山　堀前はるを

差別なんかに負けるもんか
仂き者の母親の暖い
ふところの中で育った俺たち
薄っぺらないのちなんか
もってはいないんだ

差別なんかに負けるもんか
どんなにうまい誘いの
渦がうずまいていても
俺たちにはある
明日の黎明が
共に笑顔で語り合える
日が

差別なんかに負けるもんか
いかにイバラの道が続くとも
犬奴の餌じきにはならぬ
俺たち

吹雪〈短歌〉

港務　松原直吉

炭鉱の不況の生活いつわりて母をみとりいし故郷を発つ
長病みの母に仕うるうからがそれぞれの自我秘めて酌む屠蘇
一割も芽吹かぬ豆に添え竹を呉れて昼の心はずまず
乾燥機めぐりて海苔の乾くさま夕日の窓に見えたる偶然
停年の君が移りて養豚にはげめとぞ聞く裾野も吹雪

ある夏の日のできごと

宮浦　平田千佐子

ストの日主人は、家のまわりの草取りをしていた。

外から「オイ」と呼ぶ声がする。何だろうと思って外に出てみると、主人は言った「ちょっと見てみろ」

物置小屋の前である。見ると、大きい青虫が重苦しそうに動いていた。そうっとさらに近づいて見ると、大きいその青虫の何百万分の一ほどにもおよばない小さい蟻たちがたくさんその青虫にたかっては、すでに死んでいる青虫の体を運んでいたのだった。しかも大きな青虫を、なんと軽々と運んでいたことか。

主人がいった、「団結さえすれば、どんな厚い壁にぶっかろうと恐れることはない」と。

はずかしいながら私は、この日はじめて団結というものの尊さをハッキリ見きわめた気がしたのだった。

とある夏の日の出来ごとである。

おねがい

▼合唱詩劇〝みいけの闘い〟は長崎（公会堂）でこの十四日夕、佐賀（市民会館）で二十四日昼夜さらに日南（文化センター）で四月四日夕、宮崎（市民会館）で同五日夕、延岡（野口記念会館）で昼夜一公演します。それぞれの土地ご出身の方は、故郷の親類や知人の人々に、ぜひ見ていただくよう手紙を出しましょう！